

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	国語演習	
科目基礎情報							
科目番号	4M001			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械工学科			対象学年	4		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	参考書：新訂 総合国語便覧：第一学習社：9784804033013 教科書は指定せず、授業担当者の作成したプリントを教材とする。						
担当教員	太田 たまき,田村 祐子						
到達目標							
☐ 的確で論理的な文章を作成するための基礎的表現技術を理解し、応用できる。 ☐ 信頼性を重視して必要な情報を収集・選択・分析し、論理構成に活かすことができる。 ☐ 相互批評・相互添削を通じて、他者の表現を客観的に評価すると共に建設的に助言することができる。 ☐ 相互批評や推敲を重ねることによって、文章作成過程で留意すべき要件を理解し、実践できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	的確で論理的な文章を作成するための基礎的表現技術を十分に理解し、応用できる。 ☐ 信頼性を重視して必要な情報を収集・選択・分析し、論理構成に活かすことができる。		的確で論理的な文章を作成するための基礎的表現技術を理解し、応用できる。 ☐ 信頼性を重視して必要な情報を収集・選択・分析し、論理構成に活かすことができる。		的確で論理的な文章を作成するための基礎的表現技術を理解し、応用できない。 ☐ 信頼性を重視して必要な情報を収集・選択・分析し、論理構成に活かすことができる。		
評価項目2	信頼性を重視して必要な情報を収集・選択・分析し、論理構成に十分に活かすことができる。		信頼性を重視して必要な情報を収集・選択・分析し、論理構成に活かすことができる。		信頼性を重視して必要な情報を収集・選択・分析し、論理構成に活かすことができない。		
評価項目3	相互批評・相互添削を通じて、他者の表現を十分に客観的に評価すると共に建設的に助言することができる。		相互批評・相互添削を通じて、他者の表現を客観的に評価すると共に建設的に助言することができる。		相互批評・相互添削を通じて、他者の表現を客観的に評価すると共に建設的に助言することができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	建設的な相互批評や推敲を重ねることによって、文章作成過程で留意すべき要件を理解し、実説する力を養う。						
授業の進め方・方法	授業形式：クラスを二つに分け、主として演習形式により、適宜解説的講義を交えて授業を展開する。						
注意点	授業への出席が評価の大前提です。なお、太田担当分の授業においては3年次使用の「大学生のための日本語表現トレーニング ドリル編」を持参することが望ましい。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	小論文(1) 小論文作成		設定された課題について小論文を作成することができる。		
		2週	小論文(1) 相互批評		学生同士で、小論文を相互に批評する。		
		3週	小論文(1) 相互批評		学生同士で、小論文を相互に批評する。		
		4週	小論文(1) 相互批評		学生同士で、小論文を相互に批評する。		
		5週	小論文(1) 相互批評		学生同士で、小論文を相互に批評する。		
		6週	小論文(1) 相互批評		学生同士で、小論文を相互に批評する。		
		7週	小論文(1) 相互批評		学生同士で、小論文を相互に批評する。		
		8週	敬語		尊敬語・謙譲語・丁寧語の定義を理解し、適切な運用能力を身に付けることができる。		
	2ndQ	9週	悪文訂正		悪文の訂正作業をとおし、正しい表現で文章を書くことができる。		
		10週	挨拶文の実践		礼状や添状など、挨拶文の基礎を理解し作成できる。		
		11週	自己調書の基礎		自己証書の基礎を学び、下額を作成する。		
		12週	自己調書の相互批評		相互批評をとおし、訂正・清書を行う。		
		13週	小論文の書き方		適切な小論文の書き方を学び、作成することができる。		
		14週	小論文(2)の相互批評		小論文の相互批評を行い、自己の小論文の推敲を行う。		
		15週	小論文(2)の完成		これまでの学習の総括として、小論文を完成させることができる。		
		16週					
評価割合							
	小論文(1)	小論文(2)	自己調書	提出物	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	20	20	10	0	0	100
基礎的能力	50	20	20	10	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0